

産後検診時における母乳率の上昇の因子についての検討

五十嵐 春 美, 海 野 恵理子, 芳 賀 深 雪

はじめに

当院は WHO/UNICEF の指針に基づき母乳育児を推進している。そのため、入院中も母児同室を基本としており、入院中はスタッフの頻回訪室を行い、母乳育児確立を目指してきた。2005 年度の当院の母乳率は退院時 90.7%、産後検診時には 50.5% という状態であったが、最近の母乳率を見ていくと退院時よりも産後検診時の母乳率が上昇しており、近年においては産後検診時 66.7~76.6% であった。

今回この結果を踏まえ、母乳率を上昇させた因子を検討した。当院における因子の特徴を把握すると共に、今後の母乳育児促進に繋げていくことを目的にアンケート調査を実施した。先行研究に挙げられた因子、有意差が出るとされている社会背景・心理状態等¹⁻⁴⁾と比較検討したので、ここに報告する。

研究方法および対象

対象: 仙台市立病院で平成 20 年 7~8 月に分娩し産後検診を受診した褥婦 68 名を対象とした。双胎分娩例、小児科入院児の褥婦、当初より完全人工乳である場合は対象外とした。

方法: 事前にカルテより分娩方法、在胎週数、出血量、会陰切開の有無、初・経産婦、年齢、入院時乳房トラブルの有無、産後フォローの有無、追乳の有無、生理的体重減少の程度等情報収集を行った。母親の産後検診時独自に作成した授乳行動に関する記名式による自記式アンケート調査を実施した。受診時配布し、その場で記入してもらい、回収した。カルテ、アンケートによる調査項目は全 42 項目 (表) である。

カルテおよびアンケートから得られたデータを有意差があるとされているカテゴリーに分け、母乳率との関連性について χ^2 二乗検定を行った。

結 果

アンケート対象者 68 名の中でアンケートを配布した数は 55 部であった。回収数は 49 部だった (回収率 74.5%)。有効回答は 41 部であった (有効回答率 83.6%)。

初産婦 26 名 (平均年齢 31±5 歳)、経産婦 15 名 (平均年齢 29±4 歳) であった。

得られたデータの中から有意差が出るとされる 12 項目を選び、産後検診時の母乳率との関連について χ^2 二乗検定を行った。

1) 各項目と産後母乳率の有意差の検討結果

- (1) 初産婦と経産婦に関しては有意差なし。
 $P=0.23$ ($P<0.05$)
- (2) 退院後フォローの有りと無しに関しては有意差なし。
 $P=0.065$ ($P<0.05$)
- (3) エジンバラ産後うつ病自己調査表の得点 (以下「EPDS」) に関しては有意差なし。
 $P=0.07$ ($P<0.05$)
- (4) 自然分娩した褥婦と自然分娩以外で分娩した褥婦に関しては有意差なし。
 $P=0.35$ ($P<0.05$)
- (5) 分娩時の出血量に関しては有意差なし。
 $P=0.14$ ($P<0.05$)
- (6) 分娩所要時間に関しては有意差なし。
 $P=0.22$ ($P<0.05$)
- (7) 出生時体重に関しては有意差なし。
 $P=0.39$ ($P<0.05$)
- (8) 学歴に関しては有意差なし。
 $P=0.123$ ($P<0.05$)
- (9) 母乳育児を肯定的に捉える褥婦か否かに

お名前 ()

当てはまる項目に丸をつけてお答えください。()には記述をお願いします。

1 今回母乳育児をしてみたいと考えていましたか？

A 妊娠中から考えていた B 分娩後に考えた C 特に考えていなかった

2 退院の時と現在の栄養方法は同じですか？

A 同じ B 違う

A と答えた方にお聞きします。その理由を教えてください(複数回答可)

① 退院の時(退院指導を含む)にこのままで良いと説明されたから
 ② 入院中からおっぱいがよく出ていたから
 ③ 赤ちゃんが上手におっぱいを吸えるから
 ④ 母乳もミルクも両方飲めるから
 ⑤ 退院後のおっぱいのフォローに来たらこのままで良いと説明されたから
 ⑥ 赤ちゃんが足りていそうだったから
 ⑦ その他 ()

B と答えた方にお聞きします。その理由を教えてください(複数回答可)

① 母乳が出ていない心配だったから
 ② 赤ちゃんがもっと欲しがっていたから
 ③ 周りの人の助言があったから
 ④ おっぱいが出なくなったと思うから
 ⑤ うんち・おしっこ回数が減ったから
 ⑥ 元気がなさそうだったから
 ⑦ その他 ()

3 退院後授乳に関して心配に思ったこと、不安に思ったことはありましたか？

A あった B なかった

→A と答えた方にお聞きします。どのような不安がありましたか？

()

A-1 退院後いつ頃から不安や心配が出てきましたか？

①退院してすぐ ②退院から一週間くらいの時
 ③退院後一週間から二週間くらいの時 ④その他 ()

7 仕事を休んでいる方にお聞きします。いつ頃をめでに復帰されますか？(ひとつお選び下さい)

① 産休のみ ②半年位 ③1年位 ④その他 ()

8 最終学歴についてお聞きます(ひとつお選び下さい)

① 高校卒業 ②専門学校卒業 ③短期大学卒業 ④大学卒業 ⑤その他 ()

9 赤ちゃんの性格・気質をどのように思っていますか？(複数回答可)

①よく泣く ②よく笑う ③よくぐずる ④なかなか寝ない
 ⑤かんしゃくを起こしやすい ⑥よく寝る ⑦その他 ()

**10 退院後周産部でおっぱいフォローを受けられた方にお聞きします
 フォローの感想を教えてください**

①体重増加の状態がわかって安心だった ②おっぱいの与え方について理解が深まった
 ③おっぱいの出具合がわかって自信になった ④赤ちゃんを連れてくるのが負担だった
 ⑤体重が思ったより増えていく心配になった ⑥その他 ()

11 母乳育児に関しての考えを自由にお書き下さい。

()

12 周産部のスタッフへ意見やご要望がありましたら自由にお書き下さい

()

最近の出産後の気分について答えていただきたいと思います。本日の気分ではなく、過去1週間を振り返り自分の気分之最も近いものを選びます。下記の全ての質問項目にお答え下さい。

J. L. Cox, J. R. Holden, R. Sagoosky British Journal of Psychiatry June, 1987, Vol. 150

1 物事のおかしな側面を考えたり笑ったりすることができたか。
 普段のようにできた 何となくできなかった
 ほとんどできなかった まったくできなかった

2 物事に対して楽しいことを考える気持ちになれたか

普段のようになった 普段ようにはなれなかった
 ほとんどなれなかった まるでなれなかった

3 物事が悪い方向に行ったり、不必要に自分を責めることがあったか
 常に自分を責めていた 時々自分を責めることもあった
 それほど自分を責めるようなことはなかった 全く自分を責めるようなことはなかった

4 特に理由もなく不安になったり、心配したりしたことがあったか
 まったくならなかった ほとんどならなかった
 時々なった 頻繁になった

5 特に理由もなく怖がり、パニックになったことがあったか
 頻繁になった 時々なった
 それほどならなかった まったくならなかった

6 物事にうまく対処できないことがあったか
 ほとんどの場合対処できなかった 時々対処できないことがあった
 多くの場合うまく対処できた いつもと同じように対処できた

7 あまりに不幸な気分のため、よく眠ることができなかったことがあったか
 常に眠れた 時々眠れなかった
 ほとんど眠れなかった まったく眠れなかった

8 悲しいまたは悔しい気分になったことがあったか
 常になった 時々なった
 それほどならなかった まったくならなかった

9 あまりに不幸な気分のため、いつも泣いていたようなことがあったか
 常に泣いていた よく泣いていた
 時々泣いていた まったく泣いたことがない

10 自分を傷つけたい衝動にかられたことがあったか
 頻繁になった 時々なった
 ほとんどならなかった まったくならなかった

以上で質問は終了です。アンケートにご協力いただきありがとうございます。

A-2 誰かに相談することはしましたか？

A した B しなかった

→a と答えた方にお聞きします

(a-1) 誰に相談することができましたか？

①母親(実母) ②夫 ③義母 ④病院のスタッフ ⑤その他 ()

(a-2) 相談して不安や心配は軽減されましたか？

① はい ② いいえ
 その理由を教えてください ()

→b と答えた方にお聞きします

(b-1) 理由を教えてください(複数回答可)

①誰に相談すればいいのかわからなかったから
 ②病院に電話するのをためらってしまったから
 ③育児本から学べたから
 ④その他 ()

4 母乳育児を今後継続したいと考えていますか？(ひとつお選び下さい)

A 可能な限り続けたい
 B 半年くらい(離乳食開始)をめでに続けたい
 C 年くらいをめでに続けたい
 D そろそろやめようと考えている

その理由を教えてください

()

5 退院してからご家族の手伝いはありましたか？

A あった B なかった

→A と答えた方にお聞きします。お手伝いの方はどなたでしたか？(複数回答可)

① 母親(実母) ②夫 ③義母 ④その他 ()

6 仕事をしていますか？

A している(育児休業中も含む) B していない

普段のようになった 普段ようにはなれなかった
 ほとんどなれなかった まるでなれなかった

3 物事が悪い方向に行ったり、不必要に自分を責めることがあったか
 常に自分を責めていた 時々自分を責めることもあった
 それほど自分を責めるようなことはなかった 全く自分を責めるようなことはなかった

4 特に理由もなく不安になったり、心配したりしたことがあったか
 まったくならなかった ほとんどならなかった
 時々なった 頻繁になった

5 特に理由もなく怖がり、パニックになったことがあったか
 頻繁になった 時々なった
 それほどならなかった まったくならなかった

6 物事にうまく対処できないことがあったか
 ほとんどの場合対処できなかった 時々対処できないことがあった
 多くの場合うまく対処できた いつもと同じように対処できた

7 あまりに不幸な気分のため、よく眠ることができなかったことがあったか
 常に眠れた 時々眠れなかった
 ほとんど眠れなかった まったく眠れなかった

8 悲しいまたは悔しい気分になったことがあったか
 常になった 時々なった
 それほどならなかった まったくならなかった

9 あまりに不幸な気分のため、いつも泣いていたようなことがあったか
 常に泣いていた よく泣いていた
 時々泣いていた まったく泣いたことがない

10 自分を傷つけたい衝動にかられたことがあったか
 頻繁になった 時々なった
 ほとんどならなかった まったくならなかった

以上で質問は終了です。アンケートにご協力いただきありがとうございます。

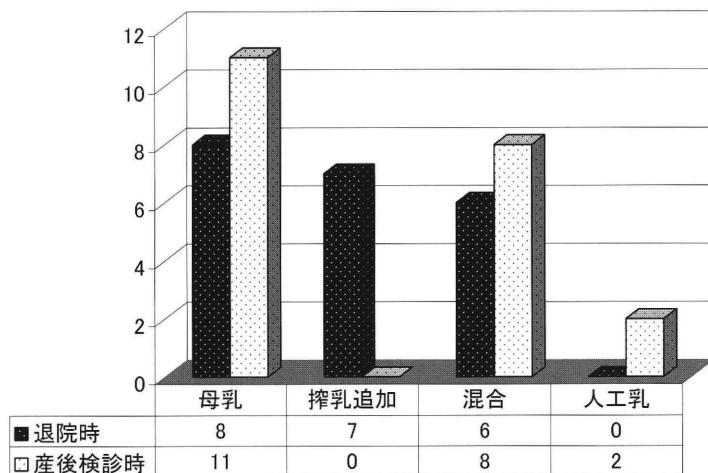


図 移行群に関する退院時と産後検診時の栄養方法の変化

関しては有意差なし。

$P=0.371$ ($P<0.05$)

(10) BMI に関しては有意差なし。

$P=0.46$ ($P<0.05$)

(11) 有職と無職に関しては有意差なし。

$P=0.94$ ($P<0.05$)

(12) 産後の職場復帰に関しては有意差なし。

$P=0.91$ ($P<0.05$)

以上 12 項目において有意差は表れなかった。

2) 移行群に関する結果

産後検診時に退院時と異なる栄養方法を選択していたもの（以下「移行群」とする）は 16 名（全体の 39%）、初産婦 12 名、経産婦 4 名であった。移行群のうち退院後フォローを行ったものは初産婦 10 名、経産婦 1 名であった。栄養方法の変化はグラフ（図）のとおりである。産後検診時に混合母乳がなくなったことと母乳群が増加していることがわかる。一方で、退院時にはいなかった人工乳も増えていた。人工乳になった 2 名のいずれも退院後フォローを受けているものではなく、退院時完全母乳、搾乳追加の母乳群であった。

移行群のうち経産婦のみに焦点を絞ると移行は 4 名であった。うち退院後フォローを行ったのは搾乳追加の 1 名のみであり、ほか 3 名は退院時母乳確立と判断し、経過良好で退院したものであった。産後検診時では完全母乳がいなくなり、人工

乳を使用した栄養法になっていることがわかった。

考 察

昨今の研究で明らかになっている母乳育児継続の要因と、阻害される要因は当院の現状では結びつくと考えられないものが多い。しかしながら、今回は調査対象者が限られており、有効回答数が少なかったため、本来有意差が出る項目においても有意差が認められなかったものがあると考えられる。また有意差は出ないものの、退院後フォローに来院し、混合群から母乳群へ移行したものは 8 名であり、人工乳・搾乳追加の離脱に退院後フォローが有効であることが示唆される。退院後フォローの有無により、産後検診における母乳率の上昇傾向が伺えた。

しかし、退院後フォローを受けながら人工乳へ移行したのも 1 名、退院時直接母乳良好と判断したが人工乳へ移行したものが 1 名おり、母乳育児促進のためには良好と判断したものであっても、退院後の母乳育児継続支援の必要性が考えられた。さらに、育児経験のある経産婦は母乳育児継続を行いやすいと先行研究では考えられていたが、当院に関しては経産婦ほど人工乳使用に移行しやすい結果が出た。このことから、経産婦には授乳行動を確立するという観点からだけでなく、

母乳育児を継続支援するという観点からスタッフ一丸となって強く係わっていく必要があると考えられた。

結 論

- 1) 先行研究に見られるような分娩方法，在胎週数，出血量，会陰切開の有無，初・経産婦，年齢，入院時乳房トラブルの有無，退院後フォローの有無，追乳の有無，生理的体重減少の程度等による有意差は見られなかった。
- 2) 退院後フォローによる母乳率の上昇傾向が見て取れる。
- 3) 経産婦は初産婦に比べ，人工乳を使用しやすい傾向にある。
- 4) 特定の者のみに行っている退院後フォローを全例に拡大するなどの対応が母乳育児支援のための今後の課題である。

謝 辞

今回の研究を進めるにあたりご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げますと共に，ご指導・助言をいただきました皆様に御礼申します。

文 献

- 1) 別府祥江 他：母乳育児を阻むもの。阻害因子の研究。助産雑誌 60：p 503-508, 2006
- 2) 瀬戸口希根 他：産後一ヶ月健診までの母乳栄養確立阻害因子の調査。静岡労災病院学術年報 2003：p 131-133, 2003
- 3) 中村晶子 他：母乳育児の継続に影響する要因の検討。第 31 回日本看護学会集録(母性看護)：p 17-19, 2000
- 4) 岡本ひとみ 他：退院後一ヶ月健診までの褥婦の不安の内容と時期。第 31 回日本看護学会集録(母性看護)：p 26-28, 2000